

多元化合物の光機能・エネルギー変換材料としての魅力

2022年3月22 日(火) 10:00 ~ 17:00

ハイブリッド開催(Zoomウェビナー) (録画配信は行いません)

カルコゲン系を中心とした多元系機能材料は、材料設計自由度による新たな物性発現の舞台として、また、その物性を活かしたエネルギー変換材料として注目されています。

本シンポジウムでは、カルコゲン系を中心とした多元系化合物の「光機能材料」と「熱電材料」への応用に焦点を当て、分野横断的に俯瞰できる内容のシンポジウムを開催します。第一線で活躍される研究者の講演を通じ、多元系材料研究における課題を共有するとともに、今後の材料開発の方向性について、包括的な理解とヒントが得られる機会となれば幸いです。

みなさまのご参加と上記内容に関する一般講演の投稿をお待ちしています。

招待講演者 / 講演題目 (敬称略, 仮題)

和田 隆博 (龍谷大)	イントロダクション - 魅力ある多元化合物 -
鳥本 司 (名大)	多元化合物半導体量子ドットの合成と発光材料への応用
櫻井岳暁 (筑波大)	物理からみた光触媒材料と動向
東 智弘 (宮崎大)	多元化合物薄膜による光電気化学水分解
岩瀬 顕秀 (明治大)	多元硫化物光触媒による光-化学エネルギー変換
末國晃一郎 (九大)	多元銅硫化物系熱電半導体の開発動向
永岡 章 (宮崎大)	多元系カルコゲナイド熱電材料の開発動向と展望
石塚 尚吾 (産総研)	カルコパイライト系太陽電池の動向

